

価値創造プロセス

ウィズコロナ、DX(デジタルトランスフォーメーション)の加速、カーボンニュートラルへの対応、地政学リスクの高まり、人権への配慮やダイバーシティといった外部環境の変化を「留意すべきパラダイムシフト」として捉え、わたしたちは、競争優位の源泉となる経営資源を活用して持続可能な社会の実現に貢献する様々な価値を創造することを通じて、さらに強固な信頼の絆を築いていきたいと考えています。

01 INPUT 経営資源 ※2021年12月末時点

製造資本

製造拠点 **36**

熱処理設備能力 **237**千トン

人的資本

従業員数(連結) **4,289**人

外国人従業員比率 **70%**

知的資本

特許 **81**件 ※2021年出願件数を含む

研究開発費 **28**億円

財務資本

自己資本比率 **44.7%**

ネットD/Eレシオ **0.2**倍

格付 格付投資情報センター(R&I) **A⁻**

BUSINESS MODEL 02 価値創造に向けた取り組み

東海カーボンの強み

- 総合炭素メーカーとしてのビジネスポートフォリオ
- 技術力
- グローバル展開
- 顧客やサプライチェーンとの長期的リレーション

中期経営計画「T-2024」基本方針

- 主力事業の成長軌道回帰
- 事業ポートフォリオの最適化(選択と集中)
- 連結ガバナンス体制強化

04 OUTCOME ステークホルダーに提供する価値

2030年に向けたビジョン

先端素材とソリューションで持続可能な社会の実現に貢献する

産業・社会インフラの発展
鉄、車、EV、半導体

CO₂排出ネットゼロへの貢献
2030年25%削減、2050年ネットゼロ目標

生活の安全性・利便性向上
タイヤ、IoT、AI機器

省エネルギー・CO₂抑制
電極、FC

循環型社会の発展
鉄リサイクル、カーボンリサイクル研究への貢献

OUTPUT 03 提供する商品・サービス

事業セグメント

黒鉛電極事業

カーボンブラック事業

ファインカーボン事業

スマルティング&ライニング事業

工業炉および関連製品事業

その他事業(摩擦材・負極材等)

グローバルに広がる東海カーボンの炭素・黒鉛化熱処理拠点

日・米・欧の3地域で拡大するグローバル需要に緻密に対応

東海カーボンの特徴づける「強み」のひとつは3,000℃にも及ぶ高温下でのユニークな熱処理技術です。ここでは、当社グループ・グローバルネットワーク(P.55参照)の中でも炭素・黒鉛化熱処理能力を持つ10拠点と拠点間シナジーをご紹介します。



熱処理拠点におけるシナジー効果

黒鉛電極、ファインカーボン、スマルティング&ライニングの各事業は、取扱製品、対面業界とも異なりますが、“熱処理”はすべての事業に共通するプロセスです。これは、グループ内の技術的シナジーを産み、かつ今後の事業環境や社会情勢変化に沿った柔軟な製造対応を可能にするものです。最近では、欧州地域におけるEV用バッテリーの地産地消の動きを受けて、日本の負極材製造技術をフランスに移管し、フランスにある熱処理設備を活用して現地での負極材生産を目指すなどのシナジーを創出しています。

熱処理工程の流れ

